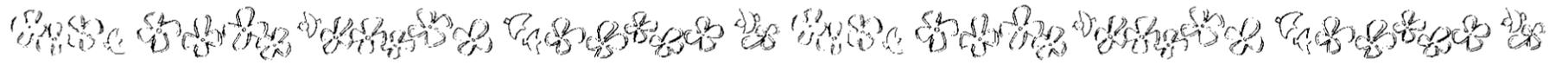




「一面よりつひく」



実習では盛んに質問が出ました

健康な生活習慣を身につけるために、毎年10月〜11月、保健教育委員会主催でとくくんでいる「わくわくヘルスチャレンジ」も、今年で第5回になります。ここ2〜3年、申込者数を



楽しく食事をしました

一人暮らしの高齢者などが「ひとりでお昼を食べるといのはかわいそう。みんなで集まって楽しく食べよう。その方が健康にもいい」という趣旨で行っている西品川支部のお食事会。9月26日(月)に三ツ木会館で行い、三ツ木診療所の患者さんを中心に、職員も合わせて33人

みんなで楽しく食べよう!
西品川支部 お食事会

「何とか3ヶタにのせよう」とチャレンジを呼びかけていましたが、70〜80人に終わってしまいました。毎年とくくんだチャレンジの方々の経験を交流すると、本場にすばらしいとくくみが報告されます。「全部の班に呼びかけ、班員全員で申し込むなどしてもらい、今年こそ何とでも3ヶタにー」と保健教育委員会が確認し、呼びかけを強めました。

9月24日(土)には、スタート集会として「救急蘇生法とAED」の講習会を開催し、24人が参加。東日本大震災から半年経ちましたが、東京でもいつ大地

第5回わくわくヘルスチャレンジ 申込者が100人を突破してスタート

震が起こるかわかりません。また最近、日本代表チームで活躍したこのあるサッカー選手が練習中に急死し、その場にAEDがなかったことが問題になりました。

恒例の食後のミニ講義は、みつぎ薬局の小林寛業局長による「日本の薬はなぜ高い?」でした。食事については「おいしい!」とみなさん口をそろえていました。食事を終えて、楽しくおしゃべりもできて、満足そうに帰路につきました。

が参加しました。この日のメニューは、きのこご飯、味噌汁、切り干し大根、フルーツという内容。職員と地域の組合員の女性ボランティアが朝から料理の準備をし、会場の準備・配膳には男性の職員組合員のボランティアも活躍します。みなさん、手慣れたものです。年に3回開催されていますが、この日は2人の方が初参加でした。

今年もグループごとの申し込みを推奨しましたが、大森西健康チェック班が「ラ・フランス」というユーモラスなグループ名をつけて、20人近い人数で申し込んでくれたのを筆頭に、ゆたかの家、羽田ハッスル班、若返り班、海岸八潮支部運営委員などが申し込み、さらに大田病院の職員が7人で申し込んで100人が目の前に見えてきました。保健生協本部でも色部保健

AEDについてはやはりみなさん関心が高く、グループに分かれた実習では、講師をしてくださった3人の蒲田消防署員に盛んに質問が出され、たいへん熱気を帯びた講習会になりました。このスタート集会でも数人が申し込みました。

9月18日(日)に品川区で行われました。戸越公園から出発し、



講演する吉井衆議院議員

9月14日(昨夜)、大田革新懇主催の学習会がアプリコ小ホールで開催されました。講師は国会でくり返し原発の危険を質問で明らかにし、今回の福島第1原発事故が人災であるとスバリ指

原発ゼロ・自然エネルギーへの転換に確信

摘した吉井衆議院議員。都民にとっても放射能汚染とエネルギー問題は、今後の生活そのものを左右する重大問題であり、関心事でもあることから、参加者は249人で会場に入りきれず、あきらめて帰った人もいたほど。

9月19日(祝)、明治公園で行われ、城南3法人から35人が参加しました。この日集まった人数は6万人。中央舞台では大江健三郎さんや落合恵子さんが、原発からの撤退を訴えました。集会終了後、新宿駅南口までパレードを行いました。



プラカードを掲げパレード



6万人の心をひとつに

このようなどりくみにより、ついに申込者が100人を突破!そして10月1日に1006人の申込者でスタートしました。全員が目標を達成できるよすががばりましよう!

9・19さようなら 原発集会